

ちよこつと 知識

こんなものまで!? 出世の街・浜松が生んだ日本初



軽自動車

スズキ(株)の創業者鈴木道雄氏は織機製作を成功させるが、それに満足せず自動車の開発を開始。昭和11年(1936)試作車を完成させるも戦争で研究は中止になるが、戦後、2代目社長の鈴木俊三氏とともに自動車開発を再開。昭和30年(1955)2サイクルエンジンFF(フロントエンジン・フロントドライブ)方式を初めて採用した軽四輪車「スズライト」を発売した。

オートバイ

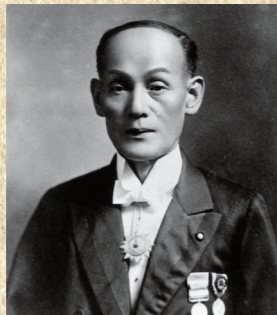
昭和21年(1946)、本田技研工業(株)の創業者本田宗一郎氏が、最初に手掛けたのは、旧陸軍が放出した無線機用小型発電機のエンジンを改造して自転車に装着した「自転車用補助エンジン」の製造だった。これをきっかけに翌年、A型50ccエンジンが完成し、二輪車を製造・販売しはじめたのを契機として、浜松に多くのオートバイメーカーが誕生した。



©Honda

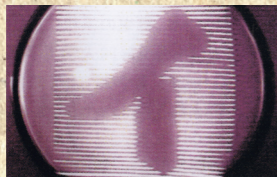
ピアノ

医療機器の修理工であった山葉寅楠氏は、市内小学校のオルガン修理をきっかけにオルガン製作を始めた。その技術を基にピアノ製作を手掛け、「日本楽器製造(現在のヤマハ(株))」を設立。明治33年(1900)国産ピアノの第1号が誕生した。河合楽器製作所の創業者河合小市氏も寅楠のもとでピアノづくりに取り組んでいた一人。



テレビ

浜松高等工業学校(現静岡大学工学部)助教授の高柳健次郎氏は、ラジオ放送も始まっていないころ「東京の歌舞伎を浜松にいる母親が見ることができるようを開発したい」とテレビの開発に着手。大正15年(1926)世界に先駆けてブラウン管に映し出す実験に成功し、電子方式のテレビジョン開発に成功した。



画像提供:静岡大学高柳記念未来技術創造館

最初にテレビに映し出されたのはイロハの「イ」だったそうじゃ



1TENKOMORI〜天竜のこれからの森を考える会〜:天竜美林を守り育てる集団で地元の林業関係者、製材業者、山林所有者、大工など木に関わる職業の若者たちが構成されている。幼稚園から高校まで次世代を担う子どもたちに「天竜美林の大切さと、木を使うことの大切さ」を伝え、山の未来を引き継いでいく活動を行っている。4YAMAHAの創業者 山葉寅楠氏のレリーフ:どうしても自分でオルガンを作りたい寅楠は、東京の音楽取調所で見てもらうため、天秤棒にオルガンを吊るし、担いで箱根の山を越え東京まで運んだそう。5HONDAの創業者 本田宗一郎氏:異端とも言える獨創性、自由奔放な性格、ホンダイズムと称されるチャレンジ精神は今もなおファンが多い。6SUZUKIの創業者 鈴木道雄氏:明治42年(1909)、足踏織機の需要の高まりに着目し「鈴木式織機製作所」を設立。非常に効率の良い優秀な織機が評判になり注文が殺到したと言われている。7浜松に染め:織物が盛んな浜松でもう一つ有名なのが、伝統的な染めである。日本独自の染色技術で特殊な糊で防染し、しゃばらに折り重ねた生地の上からやかんで染料を注ぎ入れ、模様部分を染め上げる。裏表なく染め上げるのが特徴で、にじみやぼかしにより優しい風合いを楽しめ、染料が繊維をふさがないので通気性と肌触りが抜群に良いため、浴衣などに最適。浜松は浴衣の取扱量日本一を誇る。

世界基準FSC認証された「浜松」の木材 2 3

「井の国(北区引佐地域)」を含む浜松市の森林面積は市域の66%を占め、そのうち約70%がスギ・ヒノキの人工林である。この人工林は「天竜美林」と呼ばれ、日本三大人工林の一つとして長い時間と多くの人の手により管理されてきた。天竜材は粘りと強度があり加工しやすいため住宅用材として優れ、細かくて美しい年輪の目が特徴的で高品質木材と評価されている。現在、地元だけでなく関東・東海をはじめ多くの地域に流通されている。浜松市の森林は、平成22年3月に国際認証であるFSC森林認証を取得し、現在、市町村別取得面積は全国1位である。「井の国(北区引佐地域)」においては2,200haを超える森林が認証されている。直虎の時代やその前から利用されている井の国の木材は、現在も高品質であることに加え、世界基準の木材として全国で好評を得ている。

世界から愛される「浜松」が誇る遠州織物 7 8

浜松を中心とした遠州地方は、天竜川の豊かな水と温暖な気候により、古くから綿花の産地として繁栄。江戸時代には綿花を栽培するだけでなく、農家が自給自足で綿織物を生産するようになり、市場に出回るようになったという。明治に入ると洋式紡績工場が設立されるが、TOYOTAの創業者 豊田佐吉氏による小動力織機の発明で、綿織物生産量はさらに飛躍的に増加する。全国有数の産地として遠州の織維業が確立し、大阪・愛知と並ぶ日本三大織物産地のひとつとなった。その後、化学繊維の普及や海外製品の流入により生産数は減少するものの、遠州織物ならではの製法開発や販売ルートの拡大により「遠州織物」の認知度は今もなお高まりを見せている。世界レベルの一流の織物として、パリやミラノなどで活躍する世界トップブランドや大手アパレルメーカーにも採用されるようになった。



2



3



近代日本の礎を築いた 井伊家のバトン



6



5



4

「おんな城主直虎」で登場した 材木商と綿花栽培にあり

発明家や起業家が次々と登場した浜松! そのルーツは

浜松は、恵まれた「自然環境」と、何事も果敢に挑戦してみようという「やらまいか精神」で「ものづくりのまち」として発展したんじゃないかな。



「おんな城主直虎」で登場した綿花栽培や材木商のシーン。地域の資産をうまく財源にしようとして、直虎や瀬戸方久が奇想天外な発想で東奔西走したあの場面を覚えているだろうか。浜松市の井伊谷や天竜地域では、実際に林業が盛んで良質なスギやヒノキが生産されている。また、材木商に欠かせない丸ノコギリや木工機械は、日本で初めて浜松で作られたものである。一方明治中期、浜松市は綿織物の大産地へと成長し、遠州織物は全国ブランドへと発展した。繊維の製法技術がトヨタ・スズキ・エンジンなどの自動織機メーカーを生み、機械産業を牽引した。さらに木材加工の技術を活用してオルガンの国産化にも成功。それを礎にピアノを中心とした楽器生産やホンダ・スズキ・ヤマハなど輸送用機器生産のグローバル拠点に成長した。浜松が「ものづくり都市」として発展した産業の根底には、井伊家に伝承されてきた「奇想天外」かつ「やらまいか精神」が今も昔もこの地に宿っているからかもしれない。